

Richart ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第154号

ななえ古写真物語 VOL. 154

おまわりさん

七飯警察官派出所

昭和40年代か

本町地区



nanae historical
museum collection

いつの時代も、町の治安を確保することは、住民にとって最優先事項であり根幹でもある。日本では、明治時代以降に「警察」が組織され、現在に至っていおり、ななえでは、明治初期の開拓使時代から、函館に所在する警察署の管下にあったが、あまりその機能が発揮されなかったようで、村民は常に治安に懸念を抱いていたという。

ところが、明治21年に茅部郡山越郡役所と亀田上磯郡役所が合併となり、亀田外三郡役所がななえに所在することになり、郡役所内に警察署が併設され、警部や警部補が配属となり、治安向上に一步前身した。明治24年には大中山村に巡查派出所が、明治38年には大沼巡查駐在所が設置され、村内の治安の維持、警備体制が強化された。しかし、明治40年に郡役所の廃止に伴い、七飯警察署も廃止となったが、翌年に大野分署の所管で「七飯巡查駐在所」が設置された。記録によると、派出所の建物は七重官園の住宅を改築したという。

その後、紆余曲折を経て函館警察署の所管に移され、昭和25年に七飯巡查部長派出所が設置された。当初は峠下村が管轄から外れていたが昭和33年に統合されたという。

さて、写真の建物は昭和40年代に撮影されたと思われるもので、場所は、国道5号沿いの現在、学習塾（錬成会）が設置されている辺りと考えられる。一見すると趣のある古民家といった佇まいであるが、明治41年に官園住宅を改築したものかどうかは確証はない。玄関上部に取り付けられた桜の代紋の存在が、警察であることを知らせているし、さりげなく掲げられている表札にも「函館中央警察署 七飯警官派出所」の文字が記されている。

しかし、あまりにも普通の住宅に見えるため、我々は治安を守らなければならないのだ。といった使命感のようなものや、ここが交番ですよ。といった顕著な主張がない建物にも見える。勝手なイメージだが、中に配属されている人も警官（Police）というより、「おまわりさん」とひらがな書きで表現する方が似合う感じがする。どこかゆったりとした鷹揚な時代だったのだなと思わざるをえない。

いずれにせよ、今から150年ほど前から始まった警察制度は、現在も町の治安を守るため、懸命に任務を全うしてくれている。管轄や場所が変われども、そのおかげで安心安全な暮らしが出来ていることに敬礼である。

11月の予定

学べるマンガを展示しています。

ロビー展は職員が様々なアイデアを出し合って決めることが多い展示です。時勢に合わせて行ったり、時にはお客さまの意見を参考にしたりすることもあります。さて今回のロビー展示テーマは「学べるマンガ」です。日本のマンガはクオリティーも高く、海外にも人気があり、多ジャンルです。博物館らしく、考古学や民俗学、歴史、科学や生きものなどを、マンガによって学ぼう！と提案した展示です。まずは、職員が影響を受けたものを置きました。活字だけの本から学ぶのも、良いのですが、興味のきっかけとして、また入門書としての役割も担うマンガは、知識も入りやすいのでは、ないでしょうか。個人的にイチオシなのは、鳥の生態や北国の暮らしをコミカルに描いた作品です。普段何気なく見ている身近な鳥をじっくりと観察し、名前を付けキャラクター化しているので、愛着が湧くと同時に、気づけば知識もついていきます。ご興味のある人は、当館に足をお運び頂き、「学べるマンガ」で、お薦めのものがあれば、是非お教え下さい。



1	日
2	月
3	火 文化の日
4	水
5	木
6	金
7	土
8	日
9	月
10	火
11	水
12	木
13	金
14	土
15	日
16	月
17	火
18	水
19	木
20	金 ピチャリ155号発行
21	土
22	日
23	月 勤労感謝の日
24	火
25	水
26	木
27	金
28	土 ジュニア探検クラブ
29	日
30	月

こんな仕事もあります。

博物館の仕事は、多種多用。以前畑や見本園の作業などを、このお便りで書きましたが、館内の業務で難儀なのが、高所での作業です。先日は長い梯子を使い、茅葺民家の屋根の近くの電球交換。一人が交換し、もう一人は下で梯子を押さえます。上より降りの方が怖いので、下を見ずにそろりそろりと下りていきます。大きな資材や重い資料も運ぶことも多いので、男女問わず、気づけば自然と力持ちになってます。



11月の休館日はありません。

果ての姿

咲いている花だけが美しい訳ではない。終わりを迎える花の姿や形も美しい。そんな写真を撮り続けています。



編集後記 ~tawagoto~

朝夕の気温が低いと感じる。あわせて日が沈むのも早くなった。毎年思うのは、秋はあっという間に訪れ、去っていくということ。黄色く染まったカツラの葉が、甘苦い香りを放ちながらハラハラと風に舞い、あんなにいたトンボの数が、日に日に少なくなっていく。道を歩いているとクリのイガが音をたてて眼前へ落ち、斜陽に照らされた木々は彩りを強めているのに気づく。つかの間の秋を堪能し始めた頃、冬がやってくる。(やまだひさし)

~ピチャリ~
Pichari 第154号

令和2年10月20日発行
七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3
電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182
E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp